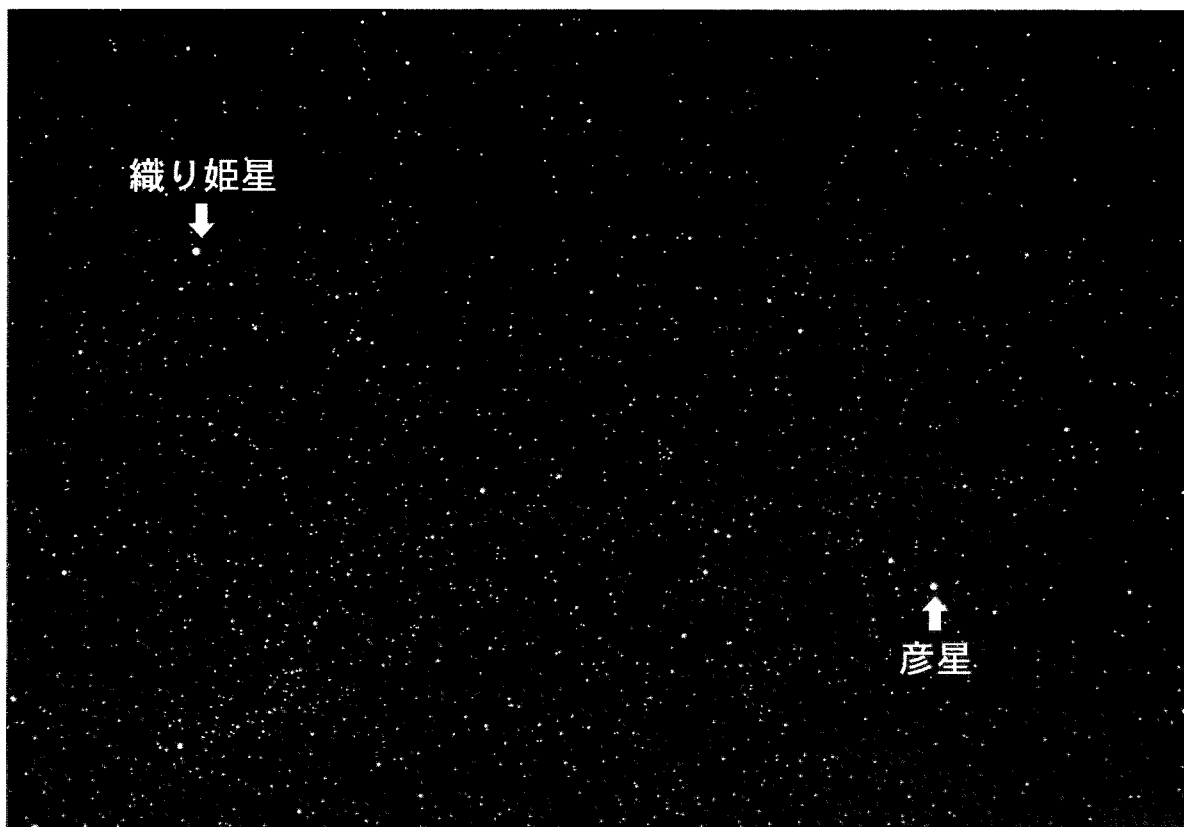


あるむぜお48

府中市郷土の森だより

a | museo NO. 48

1999年6月20日



星の歳時記

今年、初夏の西空には、宵の明星金星が一際明るく輝き、南の空には赤く無気味に輝く火星が春の星々に彩りを加えています。

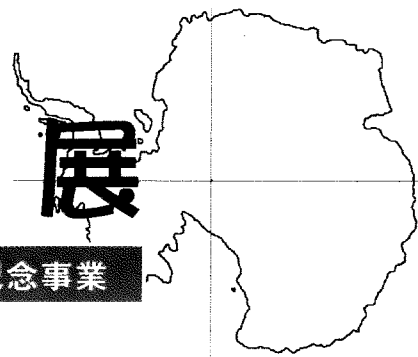
さて、6月になると長〜い梅雨に入るため、星を見る機会もぐっと少なくなります。でも、梅雨の合間を縫って見える星空は、雨が空をきれいにしてくれるせいか、普段より輝きを増します。

宵空、東の空から夏の星座が少しずつ昇ってきています。まず目につくのが、東の空で一番明るく輝く星、七夕伝説に登場する「織り姫星」(ヴェガ)です。相棒「彦星」(アルタイル)は少し遅れて、昇ってきます。その織り姫星と彦星の間を流れるのが上の写真で、ほーっと雲のように写っている「天の川」。伝説では、天の川を年に一度七夕の晩に、渡って逢うことができるということです。

実際の2つの星は、織り姫星が太陽から25光年、アルタイルは16光年離れていて、2つの星は見かけ上34°離れています。このことから、実際の2つの星の距離を計算するとおよそ16光年になります。これは、私達が知っている中で一番速い光ですら16年もかかる程、離れていることになります。中間で会うにしても8年かかるので年に一度のデートはちょっと難しいかも知れません。そんなことを知ってか知らないでか、江戸時代にはたらいに水を張ってそこに2つの星を映して、揺れる水面に近く2つの星を楽しんだとか…。

現在の暦では、昔の暦にくらべると1ヵ月以上七夕が早いため、遅い時間にならないと2つの星も空高くのぼってきませんが、昔の人に習って七夕を楽しんでみてはいかがでしょうか。

ふしぎ大陸 南極展



文部省委嘱巡回展モデル事業 / 市制45周年記念事業

主催：財団法人府中文化振興財団
 全国科学博物館協議会
 国立科学博物館
 国立極地研究所
 朝日新聞社

後援：府中市教育委員会
 展示協力：白瀬南極探検隊記念館

観覧料：大人 400 円・子供 150 円
 (入園料を含みます)

1999.7.18.(日)~8.31.(火)

地軸の南端である南緯90度の地点、“南極点”。これを中心に広がる南極大陸と隣接する諸島、海域などを含む地域を総称して「南極」と呼びます。

南極大陸は平均^{みづつ}海拔2300mを越える、地球上でもずばぬけて標高の高い大陸ですが、それは平均2500mもの厚い^{ひょうしょう}氷床でおおわれているためです。氷床と呼ばれるこの氷は全世界の海の高さに換算すると65mにもなります。氷をはがした地形をみると、南極横断山地をはさんで東南極と西南極に分けられます。大陸全体の3分の2を占める東南極はいくつかの大盆地をもつ大陸であるのに対し、西南極は深い海で分けられた多くの群島から成っています。

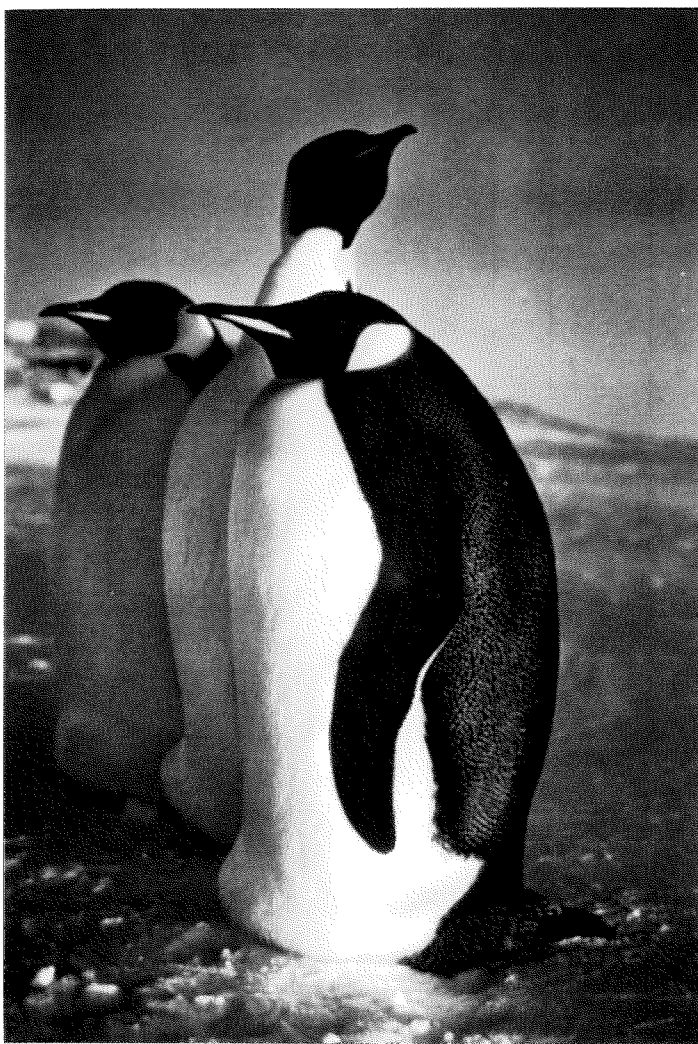
南極を取り囲む海には、海氷が日本の面積の50倍以上広がるとともに、氷山は30万個以上にも及びます。南極

の氷床や海氷は、冷源として^{じゅうたん}大気や海洋の循環を支配し、地球規模の気候に大きな影響を与えます。

南極大陸の内陸部に陸生動物は分布していません。沿岸部や海域にペンギン、クジラ、アザラシ

の仲間が生息し、植物も大陸の^{ろがん}露岩地域に^{ちい}地衣類(コケ)の存在が知られていますが、高等植物は見つかっていません。

地球上において位置的にも、極めて特異な環境



である南極は、気候や気象、生態系などを含めた地球環境の観測・研究には最適の存在ということになります。ましてや長い年月を費やして^{たいせき}堆積した氷そのものこそ、地球の歴史を教えてくれる物証といえるでしょう。

200年以上の年月を経て、数多くの探検家が南極を訪れました。ある者は新天地を求めて、ある者は南極点到達一番乗りをめざしてと、人間の持つ冒険心・功名心に誘発されての行動だったと思います。しかし現在では、地球の環境変化をつかむ要所として、各国が協力し合って監視を続けるモニタリング

の時代に移りつつあるのです。

1957年7月~1958年12月の国際地球観測年に、南極観測が国際協力によって実施され、日本は「宗谷」で観測隊を運んで、1957年1月に昭

和基地を開設しました。その後観測船「ふじ」「しらせ」と引き継がれ越冬観測が続けられています。

そして日本が南極観測を開始してから40周年を迎えます。これを機に企画された本展は、南極観測事業の重要性や歴史、南極の自然をはじめ地球環境の変遷など、これまでの南極観測の成果を紹介する内容です。数々の資料と映像、そしてわかりやすいパネル解説で展開していきます。この夏休み、ぜひとも親子で楽しんでもらえたらと思います。

写真提供 国立極地研究所



観測船「しらせ」

プラネタリウム夏の新番組

エデュテインメントプラネタリウム

ドラえもん と さがそう

～宇宙のともだち～

6.19.(土)～9.5.(日)



あのドラえもんがプラネタリウムに初登場!

のび太くんが出会ったという不思議な宇宙人を探すために、ドラえもん、のび太くん、しずかちゃんの3人が宇宙へと旅立ちます。「生き物が住める星」の条件やその環境とは。そして私たちの地球では、どのようにして生命が誕生したのでしょうか?

ドラえもんは子供たちの「夢見る心」を支えてくれるパートナーです。宇宙にも夢がたくさんあります。自由に空を飛び回りたい。宇宙人と会ってみたい。今回の番組では、ドラえもんたちの宇宙人探しを通じて、夢を叶えるためには「勇気」「愛情」「努力」が必要なこと、地球の大切さ、宇宙と生命についての関わりをみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

今までに一度もプラネタリウムへ足を運んだことのない方も、ぜひドラえもんに会いに来てください。

☆観覧料

大人600円、子供300円(入園料を含む)

☆投影時間

平日 14:00、15:30

日・祝・夏休み 11:00、14:00、15:30

全天周映画「黒い太陽」

<1991・7・11ハワイ～メキシコ皆既日食>

投影時間: 日・祝・夏休み 12:30



大和の「武蔵」－天理市武蔵町－

▼まほろばの「武蔵」へ

府中に国府が置かれていた時代の、われらが武蔵の国。その「武蔵」という地名が奈良時代に都があった大和（奈良県）にあると聞いて、いちど出かけてみることにしました……。

奈良市の中心部から橿原・明日香方面へ向かう近鉄電車は、間もなく広い盆地のなかを進む。西に二上山、東に三輪山が見えてくれば、ここは古代国家発祥の地、「まほろば」の国、大和。今日の下車駅は田原本駅。めざすのはそこから東北方に約3キロの天理市武蔵町だ。駅に近い鏡作神社は、最近話題の三角縁神獣鏡に関係あるとか。寺川の橋を渡って少し行くと国道24号線に出る。この道は古代の幹線道路「下ツ道」に平行して走るとあって、さすがに交通量が多い。横断しそこねていると少し先に歩道橋があるのを見つけた。きっと眺めもいだろう。案の定、まず風変わりな楼閣建築が目に入る。そう、あのあたりは弥生時代の日本を代表する大環濠集落、唐古・鍵遺跡なのだ。吉野ヶ里遺跡に負けまいと復元建物を作ったのかも知れないが、観光客もいないしちょっと寂しそう。目を移せば、神が宿るといわれる三輪山が秀麗な姿を見せている。麓には、卑弥呼の墓の可能性もある箸墓古墳や「山辺道」の大型古墳の丘も見えるではないか。すると田んぼの向こうあたりが、めざす「武蔵」に違いない。大和の「武蔵」はそんな歴史的環境にあります。

夕暮れ迫る「武蔵」の村。新しい家が多いが、古い民家も残る。鎮守様がひっそりとありました。

以前、この地ご出身の方から聞いたことがあります。その昔、奈良の大仏を造る時、武蔵の国から集められた人が住んだ村だと。しかし、そんな記録はどこにも残っていません。

▼たくさんある国名の地名

もっと興味深いのは、同じように国名を付けた地名が大和のこのあたりに多いことです。付近の地図をちょっと広げて見ただけでも、天理市の備前町や稲葉（＝因幡）町、田原本町の伊与（＝伊予）戸・但馬・石見・三河などがすぐに目に入ります。実は、奈良盆地の東南部を中心に数多くの国名の地名があることは早くから注目されていました。その数は大字クラスだけでざっと30。他県では見られない現象のようです。しかも、『続日本紀』や「正倉院文書」に「因幡宮」「高市郡飛驒坂所」「備中宮」など見え、こうした国名地名が奈良時代まで遡ることが証明されています。

▼いつ、どうしてこんな地名が？

それでは、いつどんな理由があってこうした地名が残っているのか。これまでの諸説は次のとおりです。①奈良時代かそれ以前、朝廷が力役（労働）を課すために、全国から農民を徴集し住ませた。

②飛鳥時代以前、奈良盆地西部の旧豪族の勢力を避ける形で、東部に条里制(水田の区画)を敷いた。その時全国から農民を徴発した。

③奈良時代以前に、屯倉(朝廷の直轄地)を開墾させるために各国の国造(地方有力豪族)により、田部(人民)が集められた。

④古墳時代前期の纏向遺跡(桜井市)には全国各地から土器が持ち込まれているが、その地域と地名の国名がほぼ一致する。

意外と古い時代の産物と考えられているようです。地名というのは、もともといつの時代にできたものか判断がむずかしく、長い歴史のなかで生まれては消え、創作されたり改変されたりしながら今日まで伝えられてきたものです。奈良の歴史が古いからといって、一足飛びに古代から現代になったわけではありません。とはいっても、都が離れた平安時代以降にこれだけの全国的な地名が奈良に集まる理由があるかといえば、それも疑問です。

また、「武蔵」の地名も奈良時代より前(7世紀)のものだったら、当時の書き方で「无耶志」などと書かれてもいいはずですが。読み方だけが伝わって、漢字は後からの知識で付けられたのでしょうか。それにしても、ほとんどが奈良時代以降の国名で、漢字の使い方まで同じなのはどうもおかしいです。古い文献に「備中宮」(天平勝宝4年)「因幡宮」(天平神護元年)などと出てくるのは事実としても、いずれも「宮」とあるのもどうしてでしょう。

▼衛士・采女と武蔵氏

「武蔵」の地名の由来もやはり奈良時代の頃とすれば、当時の武蔵と大和をつなぐ人の動きとして何が考えられるでしょうか。比較的長期の滞在が必要なものに、衛士(宮殿警備のために各国の軍団から派遣される兵士)や采女(地方豪族が後宮に派遣する女官)の制度があります。

奈良時代の後半、地方の有力豪族に「〇〇宿禰」という国名を冠した氏姓が相次いで与えられています。武蔵国足立郡を本拠にした武蔵宿禰不破麻呂もその一人で、武蔵国造(その国の祭祀を司る)を兼ねる一方、古文書には「左衛士員外佐」、つまり都で衛士を統率する責任者として登場しています。彼の近親者と思われる武蔵宿禰家刀自は采女として、従四位下という位にまで出世しました。

各国を代表する豪族が、派遣した衛士や采女を仕切るセンターが都の近くにあって不思議ではありません。もちろん武蔵以外の国のもあったはずですが。その機関は豪族の私的な施設だから記録には残りづらい。しかし、地名として後世に伝えられた。

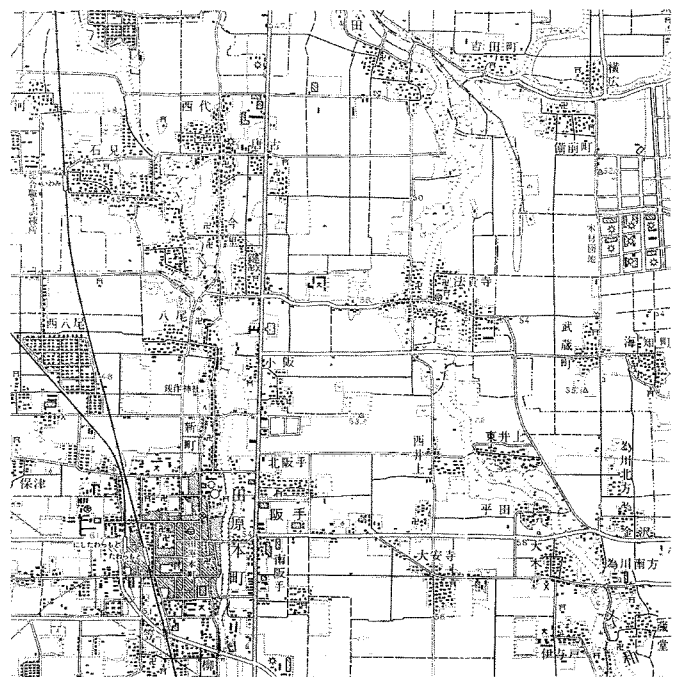
平城京までちょっと距離があるのが難点ですが、そんな想像もできるかも知れません。「備中宮」とか「因幡宮」とか古い記録に「宮」が付いているのは、采女が関係したため天皇の行幸(お出まし)があったことから、そう呼ばれたのではないのでしょうか。中世、付近には武士化した土豪の集落が散在したからといって、どうも開拓農民の村のイメージを持ち過ぎたのかも知れません。

▼武蔵出身のある衛士のロマン

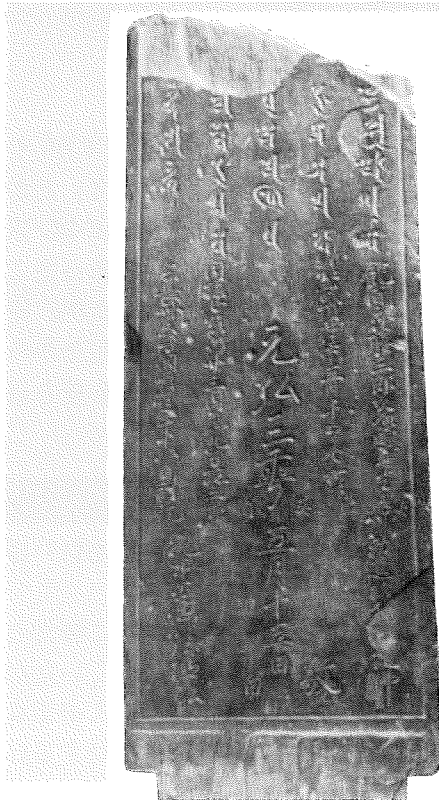
『更級日記』に伝えられたひとつの物語を思い浮かべてみました……。

むかし、武蔵国出身の竹芝という男が都に衛士として仕えていた。篝火を焚く番小屋に詰めていたが仕事がつらい、故郷が恋しい。ある時、一人の皇女が同情を寄せるようになった。遠い異国に対する好奇心もわいた。男は姫を背負って、七日七晩走って武蔵に逃げ帰った。都からの使者を姫は受け付けようとしな。とうとう二人は許されたばかりではなく、朝廷は男に武蔵国の支配を任せ、武蔵という姓も与えた。家は宮殿のように立派に造られ、二人が亡くなった後は竹芝寺となった。

もしかしたら、この話、ここを舞台に伝えられていたのではないか。すっかり暗くなった「武蔵」の村を歩きながらそんなことを考えていました。そろそろ帰らねばと思っても、バス停などある様子もない。JR奈良線の小さな駅まで出るのに、また2キロ歩かなければ……。



「武蔵」の地名を見つけよう
備前・筑紫・伊予・石見・三河もある



飽間奇勝三郎藤原盛貞生年^{廿六}
於武州府中五月十五日^{癸未}打死 勅遣秋阿弥陀仏
元弘三年^{癸未}五月十五日 白敬
同孫七家行廿三同死飽間孫三郎
宗長卅五於相州村岡十八日討死 執事通阿弥陀仏

元弘3年(1333)銘板碑【複製】
新田義貞らによる鎌倉攻めに際して、飽間盛貞・家行の両名が武蔵府中で討死にしたことを伝える。原品は東村山市徳蔵寺所蔵、国指定重要文化財。

「府中」を考える①

府中はいつから「府中」?

深澤 靖幸

しています。したがって、鎌倉時代になると「国府」がそのまま地名として定着していたと考えてよいでしょう。

今ここで各国の事例を掲げるゆとりはありませんが、地名としての「国府」の定着は、全国的にもおよそ平安時代の後期頃に求めることができそうです。なお、中世において国府は「こふ」あるいは「こう」と発音されていたようです。

府中はいつから「府中」か

しかし、「国府」の町には、やがてもう一つの名称が生まれました。それが「府中」です。

管見の限り、わが町を「府中」と呼んだ最も古い記録は、日光の輪王寺が所蔵する膨大な量の経典注釈書類にあります。そこには「武州府中定光寺」と認められています。文保3年(1319)、鎌倉時代の末期のことです。

これによって、遅くともこの頃には、地名としての「府中」が誕生していたことが窺えます。

鎌倉幕府滅亡からしばらくの間、戦乱の世となり、府中とその周辺も合戦に巻き込まれていきます。その結果、どこで手柄を立てたの、どここの陣へ馳せ参じたのだという文書がたくさん発給されました。それを見ていくと、「府中」の語が頻繁に登場します。

この南北朝時代には、地名「府中」が、定着していたことは確かなようです。

各地にある「府中」

「府中」という地名が全国各地にいくつもあることを知っていますか。そう、「府中」は東京都府中市だけではないのです。広島県に府中市があることを知っている人は多いかもしれません。でも広島県には、府中町もあるのです。

市町村の合併が進んだ今日、地方自治体の名称として「府中」が付くのは、この三つの市町に限られますが、かつては、岐阜・三重・京都・大阪・香川といった府県に府中町や府中村がありました。それだけではありません。地名辞典の索引をみると、例えば千葉県館山市や福井県小浜市の町名のように、もっとたくさん「府中」を見つけ出すことができますし、「府中」と呼ばれていた所が数多くあったことも判ります。

このシリーズでは、こうした各地の「府中」も視野に入れながら、わが町・府中の生い立ちを話題にしていこうと思います。

古代国府は何と呼ばれたか

まず第1話は、いつ頃「府中」という地名が誕生したのかです。

ところで、わが町・府中は古代に武蔵国の国府が置かれた歴史を持ち、府中の名も国府に由来するとよくいわれます。そうであるならば、

まずは古代において何と呼ばれていたのか。その点も確認しておく必要があります。ただ、残された記録は皆無に等しいといってしまうでしょう。

唯一思い浮かぶのは、平将門の乱を描いた『将門記』のなかで、武蔵国府も舞台の一つになっていることです。武蔵国司と足立郡司の争いに将門が介入する件です。ただ、ここでは「府」「府衙」「国衙」といった役所をあらわす名詞で記され、地域名称を見ることはできません。

興味深いことに、『将門記』には関東各国の国府が登場するのですが、やはり地域呼称を見出すことはできません。将門の乱が起こった10世紀前半、そして『将門記』が成立したとされる11世紀において、少なくとも東国の国府所在地は未だ確固たる地域名称を持っていなかったといえそうです。

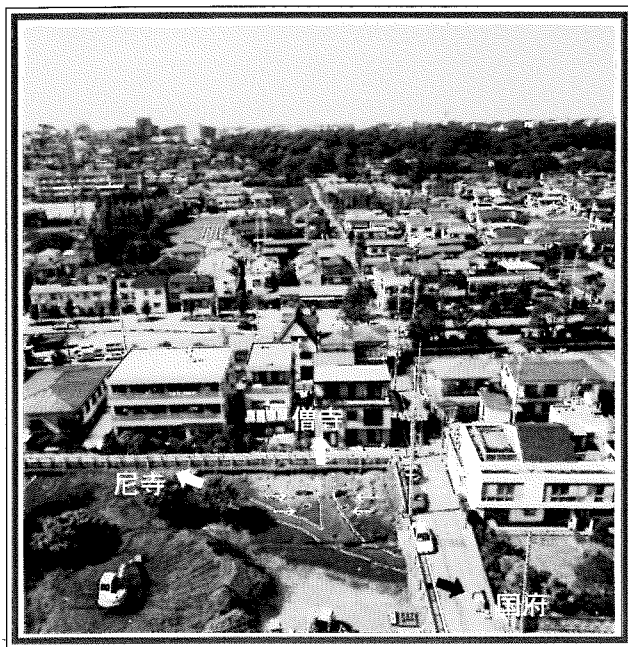
「国府」と呼ばれた頃

今度は鎌倉幕府の事績を記した『吾妻鏡』を開いてみましょう。曾我物語の素材となった、建久4年(1193)の富士の裾野での仇討ち事件の記事を読んでいくと、曾我兄弟の弟である伊東律師が「武蔵国府」に居住していた、と出てきます。これは明らかに町、すなわち地域を指

国府と国分寺の連絡路

都営栄町3丁目第2団地地区から

府中市遺跡調査会 野田憲一郎



南上空から
小さな矢印が門柱跡

現在の地名にも残っているように、府中市と国分寺市には古代武蔵国の国府と国分寺が置かれていました。国分寺は、国府に近接した場所に造られ、密接な関係にありましたが、これまでの発掘調査においてそれらを直接結びつけるような遺構は見つかっていませんでした。ところが、今回の発掘調査で古代の国府と国分寺の関係を想像させる重大な発見がありました。

今回発掘調査を行った場所は、府中第9小学校の北側(栄町3丁目)でした。この場所から国分僧寺の中門から中軸線上で見つかっている参道跡の続きと、国分尼寺から南東に斜めに延びる道路跡が見つかりました。この2条の道路跡は、驚いたことに調査地区内で合流していたのです。そして、合流地点付近で、参道跡の両側に柱を立てた門柱跡が見つかりました。その柱穴は、形が方形で、大きさは約140センチ×約120センチ、深さ約100センチの大型のものと、形が円形で直径約70センチ、深さ約60センチの小型のものが見つかりました。大型のものは少なくとも一回の建て直しを行っていて、柱自体は抜き取られた痕跡がありました。この柱穴の大きさは、国分寺の本体建物で使われていた柱穴に匹敵するもので、おそらく国分寺の本体工事に携わった工人が建てたものと考えられます。小型のものは、大型の柱穴から3mほど離れた場所で見つかっていますが、こちらは柱がそのままのこっていた痕跡が見られました。

それではこの柱穴はいったい何のために建てられたのでしょうか。この門柱を同じ場所に何度も建て直しているということは、長い期間その場所に建てていたということです。つまり、こここそ国分僧寺の参道口だったのです。そのため、寺の境界を示す目印の役割を果たしていたのではないのでしょうか。こうした参道口を示す遺構の発見は、全国的にも初めてのことです。

また、今回見つけた斜めの道路跡は、武蔵国府方面に続くと考えられます。この道路跡は、武蔵国庁推定地(現在の大国魂神社東側一帯)付近から北へ向かってまっすぐ伸びる道路跡の延長線と、現在の東京農工大学付近で合流する可能性があります。古代では国司が国分寺へ巡拝したといわれていますが、この巡拝したルートはこれまで東山道を通して国分寺へ向かったと考えられていました。しかし、このことが証明されれば国庁から国分寺へ向かう最短ルートになり、国司がこのルートを使った可能性が高くなります。この道路跡をさらに検討することによって国府と国分寺を含めた都市計画の実態がより明らかになることでしょう。

なぜ、府中市に国分寺の遺跡が

国府跡は府中市、国分寺跡は国分寺市にあると思っていま
か。国府跡とそれに直接関連する遺跡は、府中市域に限られる
のですが、なんと国分寺遺跡は違うのです。もちろん、僧寺や
尼寺の伽藍は国分寺市域なのですが、国分寺の造営や運営・維
持に関わる遺跡は府中市北部の武蔵台と栄町に及んでいるので
す。

がめらと〜きんぐ

郷土の森こめっこクラブの1年



郷土の森は、池や噴水のあるタダの公園ではありません。

古いモノが並べてあるだけの博物館でもありません。

さわってはいけないはずの古い資料を持ち出して、本当に使ってしまおう、というのが、この博物館です。

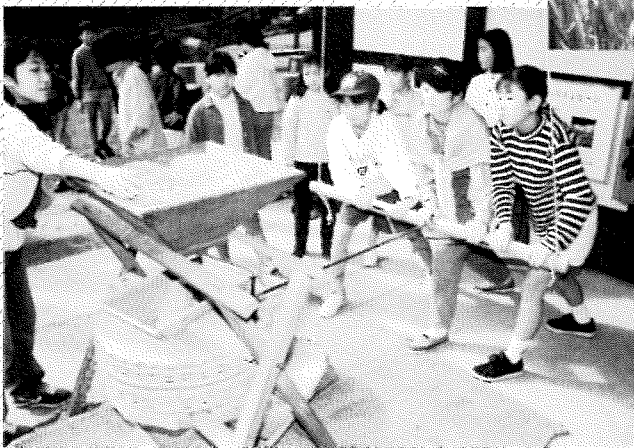


たまに来て展示室を見てまわるだけではなく、毎週のようにやってきて、楽しく汗を流してみよう、というのが郷土の森です。

茅葺き屋根の農家の前にある水田が「こめっこクラブ」のホームグラウンド。

こめっこクラブの1年は、苗代の種播きと鋤くわを使っての田起こしから始まります。

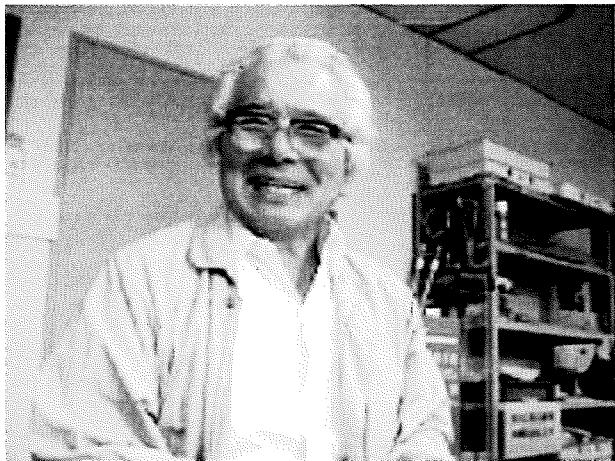
収穫祝い（ただし、豊作の確証はない）の餅つきまでの長い道のりにさあ出発！



裸足になって入る田んぼは気持ちいいですね。夏の暑い盛りの草とりはたいへんだ。稲刈りを終えてホッとする間もなく、稲扱き、粳摺りと続く…。

郷土の森では様々な分野でいろいろな方に支えられています。そんな方々を紹介するこのコーナーも5回目を迎えました。今回は、移動天文観測車ペガサスを使った太陽観望会、移動星空観測会などの活動を天文指導員として長くお手伝いいただいている佐藤昭三氏にお話を伺います。

インタビューー HONMA



こんにちは、お忙しい中ありがとうございます。

佐藤（以下S） 今日の太陽観望会、何とか、見えそうでしたよかったですね。

ええ、今日も3名来てくれてやっています。

S 私がお手伝いを始めた頃は、人数もそんなに多くなかったけれど、だいぶ安定してきたかな。

そうですね、皆さんのおかげです。本当に感謝しています。

さて、今日はペガサスを通して行う天文普及事業についていろいろお話をお伺いしたいと思います。まず、いつ頃からのお付き合いになりますか。

S 確か平成3年の秋頃だったでしょうか。市の広報誌に募集が載って、それを見て応募したんです。小学校教員を退職し、これを機に今まで遠かった星に対して近くなれるチャンスと思ったのがんばろうかなと。しかし私は、植物は好きで良く見ていたんですが、それまで星は余り見る機会がなかったので、勤まるのかがどうか最初は不安でした。

その頃の思い出は何かありますか。

S そういったことで、望遠鏡の操作など、覚えることが多くて大変でした。そのため最初の頃はやることに精一杯でお客さんとどうやって接すればいいのかも余り考えずにやっていたようでした。しかし、望遠鏡の操作などに慣れてくると今まで見えていなかったこと

が見えてくるんですね。例えば、太陽観望会で望遠鏡の順番を待っているお客さんに対しては、ちょっとした呼び掛けで興味がぐっと違ってくるんですよ。

どうということですか？

S 例えば、5円玉や10円玉などのコインを用意して、太陽はどの大きさに見えるかな？って質問すると、様々な反応が返ってくるのですが、大体10円玉や500円玉といった大きなコインを予想します。実際には御存知の通り、5円玉の穴と同じ大きさになり、がぜん目の色が変わってきます。

やはり工夫が大切ということでしょうか？

S そうですね、こういったこともあります。プロミネンスを見るのが難しいので（鞆から新聞の切り抜きを出して）、こういったもの（太陽観測衛星SOHOの撮った太陽の写真）を使ってイメージを持ってもらうと分かりやすいですね。

ところで、最近はどうですか？

S ペガサスももうすぐ10年になりますねえ。そのせいか何度も見に来てくれる人もいて、ありがたいのですが、同じ手が何度も使えないのがつらい。さらに工夫しないと（笑）。

それから、去年八千穂小学校（友好都市に出かけ、年に1回出張観望会を開いている）で、始めて太陽観望会を授業中に実施したのがあったけど、子供達がそれぞれ興味を持って見ていてとても印象に残っています。

そうでしたね、私も行ってよかったなと思える瞬間でした。そんな感動を大切にしたいですね。もう時間ですので、最後の質問です。今後はどういうふうにやってたいですか？

S 他の天文指導員の皆さんと一緒に、一人でも多くの人に星や宇宙に興味を持ってもらえるよう、素晴らしさを知ってもらえるように工夫をこらしてがんばろうと思います。自然科学は観ることが大切です。さらに自分からいろいろ見たいと思えるような雰囲気づくりもしたいですね。



■平成10年度

寄贈資料一覧

	寄贈者	資料名	分類	数量
1	平岡 優子	紀元2600年スタンプ帳	歴史	1
2	村越 園子	府中市郵便局貯金領収書	民俗	2
3	矢島 中	婚礼用御神酒徳利	民俗	1
4	大久保 博	台秤・干し物かき・根掘り具	民俗	3
5	伊東 寅治	出征時の守札ほか	民俗	一括
6	松本 俊男	椀倉収納品	民俗	一括
7	伊藤 ヒサ	カイロほか	民俗	2
8	天野 良介	下河原線列車模型	民俗	1
9	伊藤 幹司	ひな人形・五月人形	民俗	一括
10	田中 正男	教科書	教育	一括

■平成10年度

利用状況

(H10.4.1～H11.3.31)

開園日数 307 日

区 分		有料		減免 (障害者等)	合計
		一般	団体		
入園者	大人	179,180	7,489	12,240	198,909
	子供	41,569	17,892	3,469	62,930
	小計	220,749	25,381	15,709	261,839
博物館 入館者	大人	15,560	3,317	4,064	22,941
	子供	4,313	11,436	235	15,984
	小計	19,873	14,753	4,299	38,925
プラネタリウム 観覧者	大人	24,687	3,417	1,771	29,875
	子供	12,786	14,806	1,935	29,527
	小計	37,473	18,223	3,706	59,402
合 計		278,095	58,357	23,714	360,166

郷土の森新刊紹介

INFORMATION

■府中市郷土の森紀要 第12号

¥1000

- ・府中市に生息する注目すべきクモについて(II)
- ・府中用水に関する地理的研究(3)
- ・府中用水に関する地理的研究(4)
- ・府中宿本陣
- ・武蔵国府出土の鬼面線刻磚
- ・府中市郷土の森博物館蔵<四季耕作図巻>について
- ・「武州高安寺」銘の中世鰐口

■府中市内家分け古文書目録2 上染屋 村野家文書目録 ¥100

※あるむぜお イタリア語で‘博物館で’‘博物館にて’の意